

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 4月 1日

事業所名 放課後等デイサービス プレミアムAngeli

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		個別療育をする部屋等も用意している。1人あたりの基準を満たしている。子どもたちの導線も考えよく利用している。部屋をパーテーションで区切る等の感染症対策も努めている。	
	2	職員の配置数は適切である	○		資格のあるスタッフを配置すると共に適切な配置が出来る。基準以上の人員配置を行っている。経験と専門性を備えたスタッフ配置に備えている。	曜日によって利用者が集中する日があり、利用日変更を保護者様をお願いする事がある。安全に利用できる人員配置に努めている。
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	○		行動しやすい環境を意識している。トイレは引き戸、手すりを完備している。玄関にも段差がなく入りやすくなっている。	
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		日々のミーティングで前日の振り返りを行い次の課題設定に取り組んでいる。スタッフ間での共有を行っている。会議、研修、ミーティング等で個人の目標設定・振り返りに努めている。毎月研修も行い日々改善に努めている。	情報共有の仕方、タイミング等、反省すべきことがあればみんなで改善に努めている。スタッフ全員がPDCAサイクルを意識している。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		配布し、無記名で記入していただいている。評価表の実施を行った後集計したものをスタッフで共有する場を設けている。保護者様の意向には迅速に対応している。	アンケート結果をスタッフ全員で共有し、改善に努めている。保護者様のニーズや改善する点を話し合いすぐに対応できる対策を考えている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		ホームページで公開している。毎年更新している。	公開していることを新聞等で保護者様に知らせていく。
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		内部、外部評価を実施し、業務改善を行っている。(月1回環境、支援方法等を外部評価によるデイチェック)	第三者による面談、デイチェックで反省、課題、問題点等を評価。結果を基にスタッフ間で話し合い、業務改善を行っている。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		入社時のオリエンテーション。毎月内部研修を行っている(スタッフが主体となって定期的な研修を実施。)実務に関連するスキルアップ研修等。内部研修としてインフルエンザ、コロナ等の感染対応・対策に力を入れている。防火訓練を年2回以上外部講師を呼んで行っている。各委員会も開催。	研修を行い、その後の反省点、振り返りをスタッフで行っている。内部研修として行う題材はスタッフで案を出している。
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	○		保護者様にアセスメントの記入をお願いしている。日々の中で保護者様と話し、要望を聞いている。(送迎時、連絡帳等)アセスメントシートをもとに支援目標を設定している。	成長を見据えた支援を細かく行うため、アセスメントシートを取り直すことを行っていきたい。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		日々の支援目標に対して記録をしている。送迎時や連絡帳、保護者様が伝えやすいニーズに対応している。	保護者様のニーズをより聞ける体制を整えていきたい。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		コーディネーターを主に年間スケジュールを作成しそれに沿って専門スタッフ数名で立案している。1日の流れを細かく計画している。(専門性の高いスタッフが軸となり見直しながら)全体で意見を出し合う環境が出来ている。	計画したものの反省はスタッフで共有し、振り返りを行い次に生かしている。スタッフ同士、相談しやすい関係性。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		日々の活動はくり返しの課題を(意図的に)取り入れている。3ヶ月を目安として内容を検討している。イベント等を取り入れ特別感を味わえるようにしている。	発達段階、利用者様の成長に合わせた課題設定を行うため、しっかりと利用時の様子を見る。季節の行事や野外活動等で新しい事を取り入れている。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	○		過ごす時間に合わせて1日のタイムスケジュールを決めている。休日、長期休暇ではイベントや季節感を取り入れた野外に出かける等を行っている。個別にレベル分けをしている。(かず、ちえ、カレンダー等)	スキルアップとして個別に様々な課題を提供していききたい。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		小集団活動(グループ活動)・集団活動等を取り入れて支援計画書を作成している。またその時の利用者様の様子等で対応出来る環境設定を行っている。	。コロナ感染症が5類に移行したので今後個別療育を取り入れていく。(全体の活動と小集団での活動をうまく取り入れていく)
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		毎日のミーティングで細かくスタッフの配置や活動の進め方について話している。送迎、担当業務についても確認を行っている。伝達事項、注意事項の共有もしている。	反省等もふまえて、より共有できる環境をみんなで作っていく。問題が解決するまで話し合いをする。改善点を報告しあう場を作る。
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		報告は必ず行っている。ミーティングにて前日の振り返りを行っている。(次の日に行っている)スタッフ間で反省、改善し共有している。必要に応じて管理者、スタッフへの報告を行う(緊急性が高いもの等)	その日の利用者様の様子、気になる様子等も報告・連絡・相談を共有に努めている。
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		支援目標に沿って記録を毎日記録を取っている。全支援員で記入することで様々な視点から記録を取っている。	検証、改善を強化していきたい
18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	○		6ヶ月に1回のモニタリングの徹底を行っている。モニタリングを行い、支援計画の継続、修正を判断している。	計画の説明等に時間を設けていきたい。日頃から保護者様から聞ける体制、関係性を作りを整えていきたい。様々な支援員からの意見を取り入れて見直しをはかっていく。	
19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	○		ガイドラインの総則を基に考えて取り組んでいる。自立に向けた支援や野外活動、創作活動など組み合わせで行っている。	支援を考え、新しい事にも挑戦していきたい。様々な視点から考え、支援に生かせるよう努めていく。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○		会議には児童発達支援管理責任者が参加している。	
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	○		学校迎え時に先生からの体調面等の申し送りを行う。学校スケジュールをホームページから引用。学校主催のネットワーク会議に参加している。(コロナの影響で今は行っていない。)送迎サービスを行う際は、前日にメールで連絡をする。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	○		利用開始前に保護者様から主治医等に対応方法を聞いていただいている。保護者様に連絡をとれる体制は作っている。	成長につれて対応方法も変わっていくので、保護者様にも確認をしていく
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	○		利用開始前に相談事業所と保護者様を交えた担当者会議を行い、参加できない場合でも情報交換は行う。保護者様を通しておこなうことがある。	今後とも積極的に情報共有等は行っていきたい
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	○		就労施設には保護者様を介して情報提供を行った。	現在は卒業生はいないが連携を図っていける体制を作っていく
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○		ケース会議等は参加しているが、今年度は行っていない。強度行動障害の研修を受けている	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		○	交流の機会はないが野外活動等で一緒に活動できる場所には積極的に参加するようにしている。	
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している		○	現在は参加できていないが、ホームページで確認し、会議記録等には目を通している	参加できる方法を考えていきたい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○		利用時に連絡帳のやり取りや送迎時に保護者様と情報交換を行っている。	情報交換した内容を支援員全員で共通理解していく
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	○		保護者様にはデイサービス利用時に成長に合わせた支援内容を提供しており、ご家庭でも取り入れやすい方法を提案、提供している。	成長を見据えた支援を細かく行いたい。相談があった際には答えられる体制を作っている。日々の様子等から共に考えていける信頼関係作りを目指している。
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○		契約時に時間を設けて行っている。	質問があった際にはすぐ回答できるようにしている
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○		送迎時や連絡帳等で保護者様からの相談に対して助言や支援を受けられる体制を取っている。スタッフ間で共有し、検討したり助言、支援に繋げている。	多方向からの様子や支援での気付きを保護者様に報告できるようにしている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○		今年度、保護者会の実施を行っている。多くの保護者様に参加していただけた。事前アンケートを配布した。	保護者様へ発信出来る事を(内容)を考えて行きたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	○		苦情対応窓口を設けている。苦情の内容についてすぐ確認し対応している。	引き続き共有。迅速に対応していく。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○		新聞作成し、日々の活動の様子や予定などを掲示し月1回保護者様に配布している。	保護者様、利用者が楽しめるよう作成していきたい
	35	個人情報に十分注意している	○		ファイル等は施錠出来る所に保管している。紛失等に十分に気を付けている。個人情報の取扱いについても研修を行っている。保護者様の同意の得て、新聞等に写真掲載を行っている。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○		一人一人に合った関わり方を検討し、意思疎通を図っている。手話の活用、イラスト等の活用をし、家で行っている意思疎通の方法との統一を心掛けている。	成長に合わせて、意思疎通方法を変化していく。その都度保護者様と意見交換していきたい。
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○	今後は検討していきたいが現在は行われていない	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	○		マニュアルを策定し、それを基にスタッフ間で研修を行い、周知している。年度開始時に避難場所をプリントにて配布している	新聞等で発信しているが、保護者様への周知までは至っていない。周知できる方法を検討したい。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		月1回の避難訓練を行っている。(子どもたちとスタッフで)避難場所へ行く等子供たちと活動の中で行っている。外部の講師を招いて消火器の使い方、火災時の通報の仕方を研修で学んでいる。	訓練の行っていることを保護者に発信する。訓練の際、子どもたちがどんな様子だったのかお伝えしていく
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○		研修し、スタッフの意識付け、虐待について考える場を設けている。また、外部よりチェックを受ける機会を設けている。	引き続き、しっかりと意識、定期的に研修を行う。風通しのよい関係作りにも努めている
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	○		利用開始日に利用者様に口頭でお伝えはしている。利用者様の心身の状況に応じて様々なケースを想定して、職員との共通理解している。身体拘束は行っていない。	委員会の設置。事例をもとに話し合い、検討会議を行っている。
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○		アシメントシートにてアレルギーの有無を確認。ある場合は保護者様から主治医に聞いていただく。	現在アレルギーがある利用者はいないが、必要に応じて対応方法を考えていきたい。
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○		ヒヤリハットはその都度、作成しミーティングでの話し合い、毎月事例検討会も行っている。	ヒヤリハット会議を行い、改善点等をしっかりと共有し支援に繋げる。再発防止に努めている。